

平成 27 年 10 月 15 日

各 位

会 社 名 A p p B a n k 株 式 会 社  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 CEO 宮 下 泰 明  
(コード番号：6177 東証マザーズ)  
問 合 せ 先 専 務 取 締 役 グ ル ー プ CFO 廣 瀬 光 伸  
(TEL. 03-6302-0561)

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、平成 27 年 10 月 15 日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、当社グループの平成 27 年 12 月期（自 平成 27 年 1 月 1 日 至 平成 27 年 12 月 31 日）の業績予想は以下のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【連結】

(単位：百万円・%)

項目	決算期	平成 27 年 12 月期 (予想)		平成 27 年 12 月期 第 2 四半期累計期間 (実績)		平成 26 年 12 月期 (実績)		
		対売上 高比率	対前期 増減率	対売上 高比率	対売上 高比率			
売 上 高		4,031	100.0	+33.8	2,043	100.0	3,012	100.0
営 業 利 益		726	18.0	+37.8	465	22.8	527	17.5
経 常 利 益		650	16.1	+26.2	459	22.5	514	17.1
当 期 ( 四 半 期 ) 純 利 益		416	10.3	+26.8	284	13.9	328	10.9
1 株 当 たり 当 期 ( 四 半 期 ) 純 利 益		64 円 47 銭		132 円 89 銭 ※44 円 30 銭		145 円 05 銭 ※48 円 35 銭		

- (注) 1. 平成 26 年 12 月期 (実績) 及び平成 27 年 12 月期第 2 四半期累計期間 (実績) の 1 株当たり当期 (四半期) 純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。平成 27 年 12 月期 (予想) の 1 株当たり当期純利益は公募 (自己株式の処分) 株式数 (178,000 株) を含めた期中平均発行済株式数により算出しております。
2. 平成 27 年 7 月 28 日付で、株式 1 株につき 3 株の株式分割を行っております。そこで、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の数値を※にて記載しております。
3. 平成 27 年 2 月 27 日付で、当社内の一部門であるコンテンツ・プロデュースグループを新設分割し、apprime 株式会社として分社化いたしました。
4. 当社の連結子会社である apprime 株式会社及び AppBank Games 株式会社は、平成 27 年 3 月 17 日開催の取締役会の決議に基づき、平成 27 年 5 月 1 日付で合併いたしました。本合併については、apprime 株式会社を存続会社とする吸収合併方式とし、AppBank Games 株式会社は解散いたしました。

ご注意: この文章は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行うに際しては、必ず当社が作成する「自己株式処分並びに株式売出届出目論見書 (並びに訂正事項分)」をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。

## 【平成 27 年 12 月期業績予想の前提条件】

### (1) 全体の見通し

当社を取り巻く経営環境は、スマートフォンの更なる普及に伴い、メディア事業が属するインターネット広告市場において当該市場の拡大が見込まれ、また、ストア事業においても EC 事業の潜在顧客となるスマートフォンユーザーについても増加すると推測されます。それに伴い、当社グループの運営するメディア事業及びストア事業は成長していくものと考えております。

### (2) 売上高

平成 27 年 12 月期の連結売上高は 4,031 百万円（前期比 33.8%増）を見込んでおります。メディア事業売上高(内部売上高除く売上高)は 2,046 百万円（前期比 48.9%増）、ストア事業売上高(内部売上高除く売上高)は 1,985 百万円（前期比 29.0%）を見込んでおり、各事業別に策定しております。

### <メディア事業>

メディア事業の売上高は、①B2B 事業、②広告プラットフォーム事業、③アプリ事業、④動画サービス事業によって構成されております。

#### ① B2B 事業

B2B 事業は、当社グループが提供する各種コンテンツやサービスをベースに、ユーザーに対して各種広告を提供する事で広告収益を得る事業です。

B2B 事業の売上は、「AppBank.net」の純広告売上、「アヴァベルオンライン」(注)1.に係る売上、「モンスト攻略アプリ」(注)2.を利用したリワード広告売上等を主な構成としております。

純広告売上については、前年同月の売上実績、各顧客への販売見込み、今期の販売施策(新しい広告商品の投入計画等)を勘案し、各月の売上予算を策定しており、主に平成 27 年 5 月より販売を開始した動画広告の売上高が寄与することにより、515 百万円（前期比 43.0%増）を見込んでおります。

「アヴァベルオンライン」に係る売上については、アソビモ株式会社との業務提携契約に基づく報酬(対価)を、前期の売上実績を踏まえ算出しております。なお、契約締結が前期の期中であったため、平成 27 年 12 月期は前期と比較して増収となることを見込んでおります。

「モンスト攻略アプリ」を利用したリワード広告については、App Store 並びに Google Play において提供してはりましたが、平成 27 年 6 月に販売を中止いたしました。上期の実績額は、売上高 444 百万円、売上原価 215 百万円であります。

なお、平成 27 年 7 月以降は当リワード広告の売上を事業計画に織り込んでいないため、本件中止が業績予想に与える影響はございません。

以上により B2B 事業の平成 27 年 12 月期の売上高は、1,333 百万円(前期比 92.0%増)を見込んでおります。

(注) 1. アソビモ株式会社が開発運営するオンラインゲーム

(注) 2. 株式会社ミクシィが提供しているゲームアプリ「モンスターストライク(モンスト)」の攻略情報に関連するアプリ

#### ② 広告プラットフォーム事業

当社が「AppBank Network」(以下、「ABNW」という)といわれるアドネットワークを運営しており、ABNW に参加する外部開発者のアプリ向け広告配信と、当社の自社アプリの広告配信に大別して売上高を算出しております。

外部開発者のアプリ向け広告配信については、アドネットワーク広告のインプレッション数(広告が表示される回数)は前期の成長率に応じて増加、1 広告配信あたりの広告単価及び広告のクリック率は足元の実績を勘案し、ほぼ横ばいを想定しております。

また、自社アプリ向け広告配信に関して、リリース済既存アプリの前期実績を基に、売上高を算出しております。

なお、平成 27 年 8 月にリリースした iOS、Android 版の新規アプリ「仲間をさがそう HIROBA」については、既存アプリの実績を基に売上モデルを策定した上で、売上高を算出しております。

前期においては、「モンスト攻略アプリ」内において広告配信してはりましたが、平成 27 年 1 月から同アプリは、リワード広告によるサービスへ移管してはりました。リワード広告の中止に伴い、平成 27 年 6 月より ABNW の広告配信サービスを再開しております。

以上により広告プラットフォーム事業の平成 27 年 12 月期の売上高は、408 百万円(前期比 14.3%減)

ご注意:この文章は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行うに際しては、必ず当社が作成する「自己株式処分並びに株式売出届出目論見書(並びに訂正事項分)」をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。

を見込んでおります。

### ③ アプリ事業

主に、当社が運営するメディア（AppBank.net）及びアプリにおけるアフィリエイト広告売上と、スマートフォンゲーム売上高により構成されており、平成27年12月期の売上高は、41百万円（前期比10.6%減）を見込んでおります。

### ④ 動画サービス事業

主に、YouTubeからの広告売上と、ニコニコ動画で配信中の「マックスむらい部」における月額課金収入により構成されております。平成27年12月期においては、主に、YouTubeにおける動画チャンネル数及びニコニコ動画の会員数が増加することにより、動画サービス事業の売上高が増加することを見込んでおります。動画サービス事業の平成27年12月期の売上高は、242百万円（前期比55.4%増）を見込んでおります。

YouTubeからの広告売上については、前期実績（前期末7チャンネル）から、前期の実績を基に今後の動画配信計画（年間4チャンネルの増加）を勘案して算出しており、平成27年12月期の売上高は、146百万円（前期比13.4%増）を見込んでおります。

ニコニコ動画の月額課金については、月額540円（税込）の課金単価に、予想会員数を乗じて売上高を算出しており、平成27年12月期の売上高は、76百万円（前期比230.9%増）を見込んでおります。

以上の結果、平成27年12月期におけるメディア事業については、主に①B2B事業及び④動画サービス事業の売上高が前期より増加し、増収となることを見込んでおります。

### <ストア事業>

ストア事業の売上高については、主にEコマースサイト及び実店舗における物販収入（商品卸による収入を含む）により構成されております。

Eコマースサイトについては、前期実績を基に策定した予想購入者数に購入単価を乗じて売上高を算出してしております。サイトへのアクセススピードの向上、購入までの動画遷移の見直し及び購入しやすい自社商品の投入、季節毎のキャンペーン施策の実施等を図り、購入者数（前期比9.4%増）及び購入単価（前期比22.4%増）により、平成27年12月期のEコマースサイトの売上高は、1,084百万円（前期比34.9%増）を見込んでおります。

実店舗に関して、既存店舗（5店舗）については、購入単価を前期実績と同水準の計画とした上で、季節指数並びに曜日設定（平日、週末日数）を加味して各店舗の売上高を算出してしております。

新規店舗については、既存店舗の実績を基に店舗売上モデルを策定した上で、今期の出店計画（3店舗）に合わせて算出してしております。

この結果、実店舗の平成27年12月期の売上高は、670百万円（前期比32.9%増）となる見込みであります。

以上の結果、平成27年12月期のストア事業の売上高は、1,985百万円（前期比29.0%増）となる見込みであります。

### (3) 売上原価

平成27年12月期の連結売上原価は2,182百万円（前期比28.3%増）を見込んでおります。

主に広告制作に係わる費用（人件費、サーバー費等）、広告代理店への販売手数料、アドネットワークにおける広告枠の仕入原価並びにストア事業における商品等の仕入原価を主な構成としております。

広告制作に係わる費用については、人員計画等を基に算出しており、広告代理店への販売手数料、アドネットワークにおける仕入原価については、前期の実績及び今後の売上計画に基づき算出してしております。

ストア事業の仕入原価については、ストア事業の前期の売上実績及び今後の売上計画に基づき、算出してしております。平成27年12月期においては、利益率の高い自社商品の充実を図るなどの施策を勘案して、売上原価率の低下を想定し、仕入高は1,100百万円（前期比18.8%増）を見込んでおります。

### (4) 販売費及び一般管理費

平成27年12月期の連結販売費及び一般管理費は1,121百万円（前期比43.0%増）を見込んでおります。

主に人件費及び家賃（本社、ストア事業における店舗の賃借料）を主な構成としております。

人件費は、新規出店計画による人員増加を含んだ、グループ全体の人員計画を踏まえ、524百万円（前

ご注意:この文章は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。  
投資を行うに際しては、必ず当社が作成する「自己株式処分並びに株式売出届出目論見書（並びに訂正事項分）」をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。

期比 52.1%増)を見込んでおります。家賃は前期実績及び今後の出店計画に基づき算出してしております。

(5) 営業利益

以上の結果、平成 27 年 12 月期の連結営業利益は 726 百万円 (前期比 37.8%増)を見込んでおります。

(6) 経常利益

営業外損益として、支払利息、受取利息等を見込むほか、上場関連費用等を織り込んでおります。この結果、平成 27 年 12 月期の連結経常利益は 650 百万円 (前期比 26.2%増)を見込んでおります。

(7) 当期純利益

特別損失として減損損失 5 百万円を見込んでおります。この結果、平成 27 年 12 月期の連結当期純利益は 416 百万円 (前期比 26.8%増)を見込んでおります。

以上

ご注意:この文章は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行うに際しては、必ず当社が作成する「自己株式処分並びに株式売出届出目論見書(並びに訂正事項分)」をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。

平成27年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年10月15日

上場会社名 AppBank株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6177 URL http://www.appbank.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 宮下 泰明  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役グループCFO (氏名) 廣瀬 光伸 (TEL) 03-6302-0561  
 四半期報告書提出予定日 — 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年12月期第2四半期の連結業績(平成27年1月1日～平成27年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第2四半期	2,043	—	465	—	459	—	284	—
26年12月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 27年12月期第2四半期 284百万円(—%) 26年12月期第2四半期 —百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第2四半期	44.30	—
26年12月期第2四半期	—	—

- (注) 1. 当社は、平成26年12月期第2四半期においては四半期連結財務諸表を作成していないため、平成26年12月期第2四半期の数値及び平成27年第2四半期の対前年同四半期増減率を記載しておりません。  
 2. 当社は、平成27年7月28日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っておりますが、当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。  
 3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、当社株式は平成27年12月期第2四半期末においては非上場であることから記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年12月期第2四半期	1,799	717	39.8
26年12月期	1,628	431	26.5

(参考) 自己資本 27年12月期第2四半期 715百万円 26年12月期 431百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年12月期	—	0.00	—	—	—
27年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年12月期の連結業績予想(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,031	33.8	726	37.8	650	26.2	416	26.8	64.47

- (注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無  
 2. 平成27年7月28日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、連結業績予想の

「1株当たり当期純利益」については、当該株式分割後の発行済株式数（自己株式を除く）により算定しております。

## ※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 、除外 1社(社名) AppBank Games株式会社

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年12月期2Q	6,798,000株	26年12月期	6,798,000株
27年12月期2Q	378,000株	26年12月期	378,000株
27年12月期2Q	6,420,000株	26年12月期2Q	—

- ② 期末自己株式数

- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

- ※(注) 1. 当社は、平成26年6月17日付で普通株式1株につき2,000株の株式分割を、平成27年7月28日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

2. 当社グループは平成26年12月期においては、四半期連結財務諸表を作成していないため、平成26年12月期第2四半期の期中平均株式数を記載しておりません。

## ※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

## ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績未通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	5
4. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第 2 四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第 2 四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	11
(セグメント情報等) .....	11
(後発事象) .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済情勢は、個人消費や設備投資に持ち直しの兆しがみられるとともに、企業業績の回復や雇用環境の改善も進んでおり、総じて緩やかな回復基調を続けております。

当社グループを取りまくインターネット広告市場やスマートフォン市場といった事業環境は、引き続き拡大を続けており、平成26年のインターネット広告費(注)は前年から12.1%増加し、1兆519億円までに拡大しております。

このような環境の下、「You are my friend.」の経営理念のもと、ユーザーの皆様に対して“コンテンツの楽しみ方をお伝えする”ためのメディアとして、媒体価値の向上とともにユーザーとの関係構築を推進することで、AppBankブランドの価値増大に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高2,043,250千円、営業利益465,811千円、経常利益459,444千円、四半期純利益284,387千円となりました。

(注)出所：株式会社電通「2014年(平成26年)日本の広告費」

各セグメントにおける業績は、次のとおりであります。

## (メディア事業)

スマートフォン広告市場の拡大に伴い、当第2四半期連結累計期間における「AppBank.net」の総ページビュー(以下、「PV」という)数は、約7億9千万PV(前年同期比9.9%増)と堅調に推移しております。

「AppBank.net」を中核とした自社媒体における広告収入は順調に伸長し、営業面では、動画広告商品としてYouTubeチャンネル「あいたかはしくんチャンネル!」等の販売を開始しました。

また、株式会社CAリワードと業務提携しApp StoreならびにGoogle Playプラットフォームにおいて提供していた「モンスト攻略アプリ」を利用したリワード広告については平成27年5月まで好調に推移いたしましたが、平成27年6月に販売を中止いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,137,261千円、セグメント利益(営業利益)は411,639千円となっております。

## (ストア事業)

実店舗及びEコマースサイト運営双方とも、動画チャンネルを始めとした自社媒体群を通じてユーザーの皆様アイテムの魅力を伝え、購買に結び付けるという戦略を継続し、売上は堅調に推移しました。

店舗事業においては、当第2四半期連結累計期間において、直営店「AppBank Store」の新規出店を行っていませんが、既存の8店舗(直営店5店舗、代理店3店舗)の売上が堅調に推移しました。

Eコマースサイト運営では、動画チャンネル以外にも、メールマガジンを使ったユーザーへのプロモーションの実施等により、売上は堅調に推移しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は905,988千円、セグメント利益(営業利益)は46,141千円となっております。



(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は1,799,871千円となり、前連結会計年度末に比べ171,309千円増加いたしました。これは主に、「現金及び預金」が257,141千円増加したものの、「商品」が45,542千円減少したことによるものであります。

負債は1,082,541千円となり、前連結会計年度末に比べ114,848千円減少いたしました。これは主に、「買掛金」が77,167千円及び「未払金」が36,512千円減少したことによるものであります。

純資産は717,330千円となり、前連結会計年度末に比べ286,158千円増加いたしました。これは主に、「四半期純利益」を284,387千円計上したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ320,141千円増加し、1,014,503千円となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、208,964千円の増加となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益454,345千円、支出の主な内訳は、仕入債務の減少額77,167千円、法人税等の支払額200,162千円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、46,166千円の増加となりました。収入の主な内訳は、定期預金の払戻による収入88,000千円、支出の主な内訳は、敷金の差入による支出12,158千円、定期預金の預入による支出25,000千円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、65,010千円の増加となりました。収入の主な内訳は、短期借入金の増加13,031千円、長期借入金の増加160,000千円、支出の主な内訳は長期借入金の返済109,792千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本日開示いたしました「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。なお、上記予想は、現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想数値と異なる場合がございます。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第 2 四半期連結会計期間において、AppBank Games 株式会社は、apprime 株式会社と合併したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	782,361	1,039,503
売掛金	470,771	460,782
商品	144,509	98,966
その他	58,456	32,601
流動資産合計	1,456,098	1,631,854
固定資産		
有形固定資産	76,319	69,908
無形固定資産	23,074	11,230
投資その他の資産	73,069	86,878
固定資産合計	172,463	168,017
資産合計	1,628,562	1,799,871

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	265,058	187,890
短期借入金	70,000	83,031
1年内返済予定の長期借入金	150,132	203,456
未払法人税等	198,793	161,070
その他	253,088	190,861
流動負債合計	937,072	826,310
固定負債		
長期借入金	233,472	230,356
資産除去債務	23,395	25,637
その他	3,450	237
固定負債合計	260,317	256,231
負債合計	1,197,390	1,082,541
純資産の部		
株主資本		
資本金	99,850	99,850
資本剰余金	99,750	99,750
利益剰余金	246,314	530,701
自己株式	△14,742	△14,742
株主資本合計	431,172	715,559
新株予約権	-	1,771
純資産合計	431,172	717,330
負債純資産合計	1,628,562	1,799,871

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第 2 四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 1 月 1 日 至 平成27年 6 月30日)
売上高	2,043,250
売上原価	1,088,017
売上総利益	955,233
販売費及び一般管理費	489,421
営業利益	465,811
営業外収益	
受取利息	61
為替差益	196
雑収入	50
営業外収益合計	309
営業外費用	
支払利息	4,281
雑損失	2,394
営業外費用合計	6,676
経常利益	459,444
特別損失	
減損損失	5,099
特別損失合計	5,099
税金等調整前四半期純利益	454,345
法人税、住民税及び事業税	160,860
法人税等調整額	9,097
法人税等合計	169,958
少数株主損益調整前四半期純利益	284,387
四半期純利益	284,387

(四半期連結包括利益計算書)  
(第 2 四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 1 月 1 日 至 平成27年 6 月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	284,387
四半期包括利益	284,387
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	284,387
少数株主に係る四半期包括利益	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 1 月 1 日 至 平成27年 6 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	454,345
減価償却費	20,177
受取利息及び受取配当金	△61
支払利息	4,281
減損損失	5,099
売上債権の増減額(△は増加)	9,988
たな卸資産の増減額(△は増加)	45,542
仕入債務の増減額(△は減少)	△77,167
未払金の増減額(△は減少)	△36,512
未払費用の増減額(△は減少)	△9,133
前受金の増減額 (△は減少)	△6,373
その他	3,080
小計	413,266
利息及び配当金の受取額	61
利息の支払額	△4,200
法人税等の支払額	△200,162
営業活動によるキャッシュ・フロー	208,964
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△4,664
敷金及び保証金の差入による支出	△12,158
定期預金の預入による支出	△25,000
定期預金の払戻による収入	88,000
その他	△10
投資活動によるキャッシュ・フロー	46,166
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	13,031
長期借入れによる収入	160,000
長期借入金の返済による支出	△109,792
新株予約権の発行による収入	1,771
財務活動によるキャッシュ・フロー	65,010
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	320,141
現金及び現金同等物の期首残高	694,361
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,014,503



## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当第2四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	メディア事業	ストア事業			
売上高					
外部顧客への売上高	1,137,261	905,988	2,043,250	—	2,043,250
セグメント間の内部売上高 又は振替高	22,080	9,846	31,927	△31,927	—
計	1,159,342	915,834	2,075,177	△31,927	2,043,250
セグメント利益	411,639	46,141	457,781	8,030	465,811

(注) 1. セグメント利益の調整額8,030千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ストア事業」において、移転に伴い閉店が決定した店舗の固定資産について減損損失を計上しております。  
なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては5,099千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第2四半期連結会計期間において、ゲームアプリ開発を主要な事業とする当社連結子会社のAppBank Games株式会社はゲーム開発事業の縮小に伴い、同じく当社連結子会社のaprime株式会社が吸収合併しております。これに伴い、当社グループ内での今後の事業展開を鑑みて経営管理区分を見直した結果、第2四半期連結会計期間より報告セグメントを従来の「メディア事業」、「ストア事業」及び「ゲーム事業」の3区分から、「メディア事業」及び「ストア事業」の2区分に変更しております。

## (重要な後発事象)

## 株式分割

当社は、平成 27 年 7 月 8 日開催の取締役会決議に基づき、平成 27 年 7 月 28 日付で以下のとおり株式分割を行っております。また、平成 27 年 7 月 27 日開催の臨時株主総会決議により、平成 27 年 7 月 28 日付で単元株制度導入に伴う定款変更を行い、単元株式数を 100 株とする単元株制度を採用しております。

## (1) 株式分割及び単元株制度採用の目的

全国証券取引所が公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨をふまえ、当社株式の売買単位を 100 株とするため、当社株式 1 株を 100 株に分割するとともに、100 株を 1 単元とする単元株制度の採用を行います。

## (2) 株式分割の概要

## ① 分割の方法

平成 27 年 7 月 27 日を基準日として、同日最終の株主名簿に記載又は記録された株主の所有する普通株式を 1 株につき 3 株の割合をもって分割いたしました。

## ② 株式分割前の発行済株式総数

普通株式 2,266,000 株

## ③ 株式分割による増加株式数

普通株式 4,532,000 株

## ④ 株式分割後の発行済株式総数

普通株式 6,798,000 株

## ⑤ 株式分割後の発行可能株式総数

普通株式 24,000,000 株

## (3) 単元株制度の採用

普通株式の単元株式数を 100 株といたしました。

## (4) 株式分割の効力発生日

平成 27 年 7 月 28 日

なお、「1 株当たり情報」は当該株式分割が当連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

項目	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 1 月 1 日 至 平成27年 6 月 30 日)
1 株当たり四半期純利益金額	44 円 30 銭